

## 哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

## 千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第146回 例会 2020年8月13日

## &lt;コロナ危機と気候危機をつなげて考える&gt;

「新型コロナ禍に加えて水害、猛暑の中で、今回のテーマは、まさに現在進行中の具体的課題でした。でも、コロナ危機より気候危機への受け取り方が弱かったようで、二つをつなげてさらに深く考えるのは、今後の宿題として残されたように思われました。」

## 問題提起 吉田千秋(主宰)



・お盆、コロナ禍、猛暑の中、たくさん参加していただきありがとうございました。  
・さて、日本でコロナウイルスの感染が確認されて、コロナ感

染症が大きな問題になったのは2月に入ってからのことでした。この危機を通じて見えてきたもの、或いは今までにも見えていたが、もっとはっきり見えるようになったものがあります。その一つに温暖化による気候変動がもたらす地球環境の危機的状況があります。世界各地で、ロックダウンによって、二カ月近く経済活動が半ば停止状態になり、加えて人間の社会生活そのものが活動停止の状態になりました。観光客のいなくなったイタリアのベネチアでは、茶色く濁っていた運河の水が澄んで青くなりました。インドの首都、ニューデリーでは、青空が戻って、排気ガスで曇ってほとんど見えなくなっていた名所「インド門」が見えるようになりました。中国の北京や武漢でも、排気ガスの排出が止まって、空気が綺麗になりました。改めて環境破壊が、私たち人間の大量生産、大量消費の経済活動の結果であることが、改めて明らかになったと思います。コロナ禍が終息して経済活動が始まって、全てが元の状態に戻るのか、それとも、現在の汚染が緩和した状態が続くのか、私たちは今、分岐点に立っていると言えるかもしれません。

・そもそも今回のコロナ危機はどのように生まれたのか。コロナの問題が生じる前、温暖化対策を訴える若者の活動が世界的な注目を集めていました。温暖化

は地球環境そのものを変えてしまう、際限なく化石燃料を追い求める自然の開発の様な、自然のプロセスに対する人間の暴力的介入の結果として起きていることです。コロナウイルスは、元々人間の生活圏の外に生息していた動物(推定ではコウモリ)の体内に存在していたものと言われています。レアなものを食用にせんとする過度の美食嗜好のために、人間と接触する機会の無い野生動物が市場で取引されていたようです。その結果未知のウイルスが人間の体内に入ってしまったと考えられます。今回の感染症問題は人間が自然へ不当に介入した結果、生まれたと言えます。

・現在のグローバル経済に至る資本主義の発展の歴史は自然の開発、環境破壊の歴史と裏表の関係にあります。既に18世紀に哲学者ルソーが、人間の歴史は文明の歴史で、それは同時に自然としての人間の退歩、退化の歴史であると言っています。人間は自然を利用しようとして、それによって自らの生存の条件を破壊し続けてきました。コロナ感染症問題も自然との暴力的な出会いの産物だと言うことができます。

・私たちは温暖化、気候危機が起こっているということを知っています。それが具体的に何をもたらすかを自分の問題として理解する必要があります。北極や南極の氷や高山の氷河が解けて小さくなっているとか、海水温度が上昇していることはかなり以前から言われていました。ずっと以前小学生の頃、その話を聞いて、急に恐ろしくなったことを記憶しています。温暖化を身近なものとして感じるがあります。昔、各務原に引っ越して来た時、冬など随分雪が降ったりして、寒いなと思いました。しかし最近、雪がほとんど降

らなくなりました。こういうことが地球レベルで起きていることを認識しなければなりません。

- ・私たちは便利さを求めてきましたが、そのために払っている代償のことを考えることは稀です。例えば、プラスチックは大変便利なものです。それが必要不可欠の範囲を越えて、ありとあらゆるものに使用される現実があります。魚の体内から検出される眼には見えないマイクロ・プラスチックが世界の海を汚染している事が近年大きな話題になっています。それどころか、九州の九重連山の樹氷の結晶にも含まれていたことが伝えられました。私たちの生活は豊かになりましたが、それと環境破壊が表裏一体で進んでいます。無関係に思われる多くのことがつながっています。インド洋の水温上昇が高層の気流を変えて、日本で豪雨災害を引き起こしているとも言われています。
- ・個人で出来ることもあります。それだけでは十分ではありません。各国の取り組み、国家間の協力が不可欠になります。日本はどんな対応をしているでしょう。日本政府は、国際公約の言葉に反して、発展途上国で石炭火力のプラントを支援したり、温暖化対策に逆行した取り組みで国際的に批判されています。日本



では何事も専門家と役人に任せておけばいいとなりがちです。欧州では気候危機の政策作りに一般市民を参加させる新しい試みが行われています。フランスやイギリスでは無作為に選ばれた市民が専門家の助言を得ながら政策をまとめ、議会や大統領に提言をする試みを実施されようとしています。非常に建設的な試みだと思います。真の脱炭素化は主権者の市民の参加を抜きには実現できないものです。

スウェーデンの女子高生グreta・トーンベリさんの動きに触発された若者の温暖化対策を政治に訴える運動が世界的な広がりを見せました。日本にも共感する行動する若者たちもおり、政府に行動を促す市民の活動をさらに大きくしていく必要があるように思われます。

## 意見交流

- \* コロナ禍の自粛で、全国の学校が3カ月程休校になった。コロナ禍の影響で、学習遅れとなった世代の教育が心配だという声をしばしば耳にする。何故、これがそんな深刻な問題なのか理解できない。来年、受験する子どもの課題を減らすとかして対応する。無理をさせる必要はない。
- \* コロナ禍の下、余儀なくされた経済活動の自粛が、世界各地で大気や水質の改善をもたらして、生産活動を柱とする人間の営みである経済が温暖化、環境破壊の原因であることを証明する皮肉な結果となった。しかし、環境保全を優先した経済活動の縮小が今後の現実的な選択であるとは思われない。経済を維持しながら、温室効果ガスの削減を実現する環境に優しい社会を作れるが問われている。
- \* コロナ禍の世界中で一番苦しんでいるのは生活弱者だと思う。フードバンクとか、子ども食堂に頼って生活していた人たちは、三密を避けるためのボランティア活動の自粛で、サービスを受けられなくなっている。病院も逼迫している。医療関係者はいつも以

上に多忙で緊迫した生活を余儀なくされている。多くは収入減で困っているが、アマゾンやIT情報産業はいつも以上に儲けている。

- \* 私たちが直面する沢山の大きな問題は、複雑に絡み合っている。経済や社会は完全には元に戻らないと思う。現在の状況はもっと自然に配慮した形で克服されるべきである。
- \* コロナ禍で、予算の削減で人員とか、集中治療室が不足していった医療分野の色々な問題が明らかになった。公的な問題として考えた場合、基本的人権がどれほど大切にされているかといった、民主主義のあり方そのものに関わることが問われている。妥協が必要で、共通点を探って対応する必要のある民間の問題とは違う。
- \* 経済活動の縮小で、企業の経営が難しくなって、不可避免的に国や自治体の税収の大幅減が見込まれる。やっていいことと、やっていけないことをはっきりさせる必要がある。軍事費はこんなにいるのか。本当に必要なことは何か考えなければならない。地球



温暖化で北極の水が減少し、シベリアなど寒冷地の永久凍土が溶け始めている。そこで資源開発をして儲けようと目論んでいる者たちがいる。

- \* 生きることが大変で、気候危機とコロナの関連を考えることなど全然なかった。今日はなるほどと思わされた。
- \* 抗体検査で実際の罹患率が分かるという。PCR検査もそうだが、政府は出来ることを可能な限りやって、感染症を積極的に撲滅しようとしている様には見えない。
- \* 米国の大富豪たちが自分たちからもっと税を徴収して、温暖化対策に使う様にと訴える声明を発表した。よほどの危機感を持っていると思われる。環境が本当に危ういことの証明かもしれない。PCR検査が少ないという印象もある。
- \* 感染症の大流行は歴史上何度も繰り返されて来た。PCR検査は制約が多くて、医者が必要と判断して、保健所が承認して初めて行われるもので、これでは検査数はなかなか増加しない。希望して、自費負担だとお金が相当かかる。結局、個人として罹らないように心がけるとか、万一無症状で感染している場合を想定して、他人にうつさない様に気を付ける、といったことぐらいしかできない。
- \* スウェーデンの女の子もそうだが、温暖化対策を求める運動は所詮、先進国の恵まれた人たちの活動であるという印象である。当たり前のようにエアコンがあって、冷蔵庫があって、スマホがあって、快適な生活が可能であるから、経済よりも環境が大切などと言えるのではないか。発展途上国の人たちの頭にあることは、日々の生活が豊かになる事だと思う。そうした人たちにとって、化石燃料を使うとか、温室効果ガスの削減といった訴えは贅沢でしかない。
- \* PCR検査は、周りに感染確認の例の無い人たちにやっても意味が無いと思う。
- \* ウイルスは一種類ではなく、性質の異なる別種のものもあるらしい。同じ対応では適切ではないので厄介である。バランスの取れた経済活動が望まれる。元に戻した方が良いというものもある。
- \* 自粛によって北京や武漢の様に中国の都市では空気が綺麗になったことに疑いの余地が無い。経済活動はどうすればいいのか。分からないが考えるに値する問題である。

- \* 今から50年前、学園紛争があって、大学が封鎖される事態となった。今回もコロナのための自粛で自宅に籠って過ごした。時間があって、色々考える機会となった。環境や平和について考えた。多くの国々が分け隔てなく協力し合える様な平和な世界でなければ、コロナ感染症は克服できない。世界の平和が必要不可欠である。
- \* 危機は何処から来るのか。人間が原因であることは明らかである。人間は自身の中に様々な矛盾や不均衡を蔵している。自分自身を知らなければ正しい判断はできない。理性と欲望、分別と無分別、内なるものをしっかり見据えて、自分自身をもっと知る必要がある。
- \* 自粛生活で考える時間があつた。本や新聞を読んだ。「方丈記」の中で著者鴨長明は、山深く立ち入って、生について色々考えを廻らす。自然との繋がりを持つことが大切だと思う。
- \* イギリス出身で日本で暮らす作家のC.W.ニコルは環境保護活動家で、緑の大切さを訴え里山の再生運動を展開したり、エコツーリズムを実践する、フィールド・ワーカーである。多くの人間は自然との繋がりを失ってしまって、環境問題を身近に感じられない。
- \* 現実はまだ複雑で、「経済か環境か」といった二者択一は単純で乱暴過ぎる。今回、コロナ感染症の問題で、医療体制が注目の的となった。医療技術が高度になればなるほど病院経営には沢山のお金がかかる。国の経済が機能して初めて、充実した医療体制を維持することができる。政治はそういうことも考えねばならない。経済活動を停止させたくないと考える政治家がいたとして、その政治家を安直に生命軽視といって非難することはできない。
- \* 気候危機のような環境問題は結局解決しないのではないか。自分の生活が直接脅かされていると感じなければ、環境問題は他人事で、大多数は本気で動かない。
- \* 新自由主義の資本主義体制では、環境保護は不可避的に経済活動の自由を妨げる不当な政治的介入と見なされる。新自由主義の信奉者は、温暖化・気候変動を作り話、神話だと言う。



## 意見交流の最後に 吉田千秋

・コロナ禍の自粛生活のために、私たちは多くの時間を自宅で過ごすことになりました。私も普段読めない本を読んだり、ゆとりを持って考えることができました。気候危機・環境問題を考える時、現在の経済の有り方、即ち資本主義の有り方について考える必要があります。

・企業は必ず利潤の拡大を追求します。80年代以降、政治的な規制を余計なものと考えた新自由主義の影響が強まって、企業活動は政治に縛られずに、また国家の枠を越えて展開されるようになりました。その結果、特に大企業は、以前にもまして、グローバルな形で、市場を支配する大きな力を持つようになりました。こうした利潤だけを追い求める企業の活動は、しばしば、弱者を守る社会の福祉、または自然環境の様な、公益、社会全体の利益を損なう様なものになっています。熱帯雨林の様な自然の財産を壊してしまう、野放しの金儲けを規制する必要がある事は明らかです。

・今回、コロナの感染拡大のために、世界中で企業の生産活動が半ば休止状態となって、大気汚染や水質悪

化に悩まされて来た多くの都市で、著しい改善が見られました。温暖化対策の様な環境のための取り組みを強化しなければなりません。もちろんこれは環境か経済かといった単純な二者択一ではありません。大企業や富裕層に富が集中する様な現在のそれとは違った、見境なく人間や自然を搾取することのない経済の有り方を求める必要があります。コロナ禍でも、収益を伸ばしているIT企業を別に、世界中の企業が大きなダメージを蒙りました。

・危機は新しい方向を見出すチャンスでもあります。世界は庶民の生活や自然に配慮した方向に向かう必要があります。しっかり考えて行動しなければ、また同じことが繰り返されるでしょう。ただひたすら儲けの最大化を求める大企業の有り方を抑制しなければなりません。温暖化は本気で取り組みれば技術的に十分抑制することができます。無関心になることが一番大きな問題です。私たち一人一人が声を上げ続ければ希望のある方向に進めるはずで、これからもいっしょに考える機会を大切にしたいと思います。

## みなさんの感想など

○世界中で猛威を振っている新型コロナ禍は、私たちの日常生活を完全に奪ってしまったと言える。しかし今までの日常生活は人間中心の文明に依存しており、「自己中」の私生活に胡坐をかいて来たことを反省しなければならないと考えている。なぜ新型コロナが世界を急襲するようになったのか、その原因を究明するには時間がかかるであろうが、地球環境の異変がその背後にあることは、昨今の異常気象を見ても明らかであろう。こうなると、「天災」ではなく、「人災」であると考えざるを得ない。「人災」となれば、根本的には人類・地球規模での政治・経済・社会システムの問題ではなからうか。今回の「カフェ」では、コロナ禍のお陰で、日常生活を外れて、いろいろ思考を巡らす機会ができたように思う。(島田)

○毎回、私の知らない知識や考え方を知れることが楽しいです。様々な問題は、個々に発生するのではなく、すべて繋がっていることを再確認しました。全人類が生きやすく暮らしやすくするためにどうしたらよいか、話し合いをする場があちこちで広がっていく、そんなパーマナント・ウェーブ(永続波)がおきるといいなと思いました。

(Hitomi)



○いつも「哲学カフェ通信」ありがとうございます。危険な暑さのなかお元気にお過ごしでしょうか。夕立が降らないので夜も本当に暑いですね。

海水温を下げるのは容易なことではないと思います。コロナも温暖化も経済への打撃が大きく、サブプライム以降のグローバル化の中で、波が大きくなるため、体力が必要との取り組みが進められてきたと思いますが、個人も2年くらいは働かなくても生活できるくらいの貯えが必要になってきたように感じています。脱炭素化に向けて設備投資をし、グローバル化の中で富裕層をターゲットにした観光等の取り組みをしてきたところはどうなっているのでしょうか。イスラエルとUAEのニュース、





ベトナム戦争後のアメリカとこれから世界のパワーバランス、会社でいえば世代交代時の権力闘争に巻き込まれているようなそんな感覚でいます。

民主主義とは、多くのことをよく理解し他者の置かれている状況を理解することなのかなあ、と思うようになりました。自分に関係あることしかあまり向き合ってこなかったし、身近にないことをイメージすることは難しく、勘違いも多いし、とてもパワーが必要です。本当に大変な時代です。メンタルを強くしなくてはと思っています。

(U.Takako)

#### ○ <自然災害もビジネス・チャンス？>

地球環境問題の言及が少なかったので、それについて一言。「たまには震災が起こってくれんと、オレんたの仕事が回っていかん」。15年前そんな冗談ともホンネともつかないことを言った人がいた。その人、阪神大震災後に復興工事を請け負って大忙しだったが後は暇になり、酒の席でふと先の言葉が出てしまったようだった。近年日本の政府は多発する自然災害に対し国土強靱化計画なるものを策定し、全国各地で河川の改修や傾斜地などののり面を補強する工事を進めている。長良川でも雄総の辺りでやられていた。この21世紀版「列島改造計画」、背後に「業界」が見え隠れする。また、迫りくる地球規模の気候変動に対して温室効果ガス削減を求める運動が世界中で広がってきたが、同時にそれを妨害するキャンペーンも、アメリカの石油・石炭などの産業が大々的に展開してきた。災害対応も政治経済的背後を見極める必要がある。(フィリピンウオッチャー)

○新しいものに自然と社会と文化、芸術など色々考えては、自然は人間が制御できるわけでは、社会は人(たち)の意思を色濃く反映したもの。サーズ(SARS)は英雄的な医師で何とか制御できました。最近の社会が人々の生活を大切にするより、一部の者に利潤を膨大に増やすことに執心して、今の状況があるのでは。保健所が半分以上に、医療施設が疾病等に十分に應える状況になく、住宅が狭く健康に相応しくない、などなど。海外から人や物が来るのに、必要な人や資材などはどうでしょう。今は、医療を含めた知見を広めるかでは。戦争などと違い、ウィルスなどの自然の困ったものはなくせませ

ん。人間的な適切な対応もいります。医薬品を含む生活物資や社会活動も必要です。横文字より、自然、社会や人間を詳しく伝え、わかりあい、頼りあうことを積み重ねることでは。河上肇などはどう考えたのでしょうか。

(野口)

○気候変動が化石エネルギーの大量消費によるものならば、車に乗ってコーラを飲んでマックを食べるといふ、先進諸国民のライフスタイルが気候変動の最大の要因じゃないかと思われる。そのライフスタイルがカッコイイことと思ってきた、思わされて実践してきた個々人の責任はあると思います。しかし、そのようなライフスタイルをこれから経験しようとしている新興国の国民に、そんなライフスタイルは駄目だよなんて倫理的にとでも言えないし、未来はどうなるのかと思っていました。ところがシン korona が強制終了させそうな勢いで、ライフスタイルに影響を与えるようになってきています。もとの生活に戻るのか、恒常的な変化のどちらになるのかわかりませんが、未来に対しては不安9割、期待1割というところですよ。(たなか)

○いつ終息するのか、全く予測のつかない先の見えない未来に対する不安感が、人々をどんな方向に向かわせるか、それが気がかりだ。コロナに軍事力増強は何の役にも立たないことは、嫌と言うほどわかった。というのに、イーリス・アショアを諦めて、代わりに抑止力を高めるための敵基地攻撃保有能力とは？ 攻撃される要因を日本自身が自覚しているということか。戦後、獲得した今の便利な生活は、あまりに人間本位だったことに私たちに気付かせてくれたのでは？ 人間も自然の一部であることは自明の理である。お互い共生し合って、自然界のバランスを保ちながら、生物としての人間は、これまで命を繋いでここまで来たというのは確かだと思う。物々交換社会から、貨幣社会、そして近代になり、労働者、資本家が生まれ、利潤追求は留まることを知らずここまで来た。ジャングルの奥地にまで。いわゆるグローバル化ってこと。私にはここまでしか、考えが及ばない。美しい山々、透き通った水と空気を取り戻すチャンスととらえたい昨日今日だ。(ひらつか)

○休会して6カ月経つ各務原の「サロン・9条の会」を再開するには、との思いで参加させていただきました。広い会場で換気をよくしてやれば私たちもできると思いました。人と人の間隔はもう少しあった方がよいのではとも思いました。さて、議論の仕方ですが20名もの参加者一人ひとりに発言を求めるやり方は、議論するに時間の効率性が悪く、吉田先生の「十分に意見交換ができませんでした」は、私も同様に感じました。テーマは決まっていますので、まずそのテーマに対し一人、又は何人かに意

見を発表してもらい、それを基に議論を進めたら議論が弾むのではないかと思います。初めての参加者の口幅ったい感想をお許してください。(三戸)

#### ○<時代の「基本的人権」の到達点>

1000年前、病気を治すために人々は神に祈った。草木の中に薬効を見出して活用した。およそ200年前、ワクチン効果を発見して、それぞれのはやり病のワクチンも研究され、次第に流行を抑えられるようになってきた。生活環境の中での流行の仕組みもわかってきた。今、人口は増え短時間に各地へ移動できるようになり、はやり病も速く世界中に伝わるようになった。今次、ワクチンの無いコロナ禍では、それぞれの国がその社会制度により、その基本的人権の意識の到達点に即して対応した。対応への評価は様々である。国民監視体制の強化(大型コンピュータなどによる)は避けたいところであるし、到達した基本的人権意識の発展強化とともにコロナ禍を克服していく事が望ましい。(アダム・スミス)

○「コロナ危機と気候危機をつなげて考える」が今回のテーマであったが、自分はこの2つの危機に直接的な因果関係は無いと考える。自然破壊がコロナ禍を招いた可能性はあるとは思ふものの、人類が豊かになっていく上で、ある意味やむを得なかった面もあり、様々な利益を享受して今の時代に生きている以上、これを責めたり、これまでの為政者の責任を問うことはできない。むしろ、このコロナパンデミックは一部の見解にもあるように、中国国家による生物兵器説も完全には否定できず、気味の悪さを感じている。世界の各地で、一時的に感染拡大を抑えても、その後第二波に襲われている状況の中で、発生源であったはずの武漢で、あたかも何事もなかったような現在の回復状況の映像を見せつけられると、中国には公表していないウイルスに関する特別な情報を得ているように思えてならない。中国共産党や習近平政権ならやりかねないと勘繰るのは自分だけだろうか。(ryosa)

## <世界一周貧乏旅 その13> 「タイの袋ジュースと有料化」

みなさま、タイ王国の袋ジュースってご存知ですか？言葉そのまま思い浮かべていただけたら、おおよそ姿は合っております。小さめの透明ビニールの手提げ袋を用意して、瓶などに入ったコーラやオレンジジュースを氷と一緒に袋へドボドボ入れて、ストローを挿したらはい出来上がり！僕自身も、タイの屋台でジュースを買った時ビニール袋へ入れられてびっくりしましたが、手提げの形だし捨てる時小さくできるしで、案外便利だなんて思ったりしました。

さてそんなレジ袋に関して、昨今の有料化が話題ではないでしょうか。日本では7月1日から小売店のレジ袋が有料化され、環境保全のため世界はプラスチックバック(ビニール袋)にどんどん厳しくなっています。それに対しビニール袋大国のタイ、飲み物の容器レベルでビニール袋が日常に定着しており、屋台や食堂では袋に入れてと頼めば、おかずやご飯もの、スープ料理に到るまで、ビニール袋に入れて持ち帰ることができるそうです。

しかし、タイは海洋プラスチックごみの被害が世界の中でもより深刻で、プラスチックごみを誤飲したジュゴンやクジラが相次いで死に、社会問題となっています。例えばタイの環境保護当局によると、東部チャンタブリ県の国立公園で死んだ野生のゾウが発見され、解剖してみると内臓から大量のプラスチックごみが見つかったそうです。その死因は、ごみが詰まったことによる消化器官の出血などだとされています。

そんなタイではすでに2020年1月1日よりレジ袋が廃止されていて、自身で買い物袋やエコバッグを持参するか、店頭で有料袋を購入しなければいけないようになっています。僕個人としては、もらったレジ袋はゴミ袋として再利用するタイ

プで、日本にもタイにもそういう人は多いのではないのでしょうか。

レジ袋がもらえないからゴミ袋を買わなきゃいけない、ゴミ袋は生活に必要なのでそれを無くすことは難しい。ということは、もらえなくなったレジ袋分、新たにビニール袋を買うこととなります。企業はレジ袋代が回収できますが、消費者は新たにゴミ袋代の出費が家計に上乘せされました。

僕は地球環境や動物を守るために、プラスチックを減らすことは大賛成です。しかし、レジ袋を有料化することで、社会からプラスチックを減らせるというのは少し疑問なのです。(カモノハシタニ)



### <三陸だより(9)最終回>

#### 「コロナ禍での三陸の海開き」

岩手県の地元紙「岩手日報」は、6月の時点で、ことし県で海開きする海水浴場は10か所だと伝えていました。しかし、そのうち2か所が中止となり、結果的に遊泳可能となったのはわずか8か所となりました。震災前は、数多くの海水浴場で歓声が聞こえていたことを思えば、震災の爪痕の大きさを改めて考えさせられます。

三陸海岸は北からの親潮が流れ、海水温は低めです。し



たがって、海開きは7月下旬からお盆前までの短い期間となります。子どもたちは、いつもこの時期を心待ちにしています。震災から9年、かつてがれきで埋め尽くされた海岸で遊泳が可能となるということは、県民にとって感慨深いものがあります。コロナ禍での海水浴場は、地元客が中心となったものの、感染症の終息後には多くの県外観光客を期待しています。

陸前高田市の「高田松原」も美しい海水浴場でした。かつて7万本の松が並んでいましたが、あの日、たった1本を残して失われてしまいました。その「奇跡の一本松」の近くに、陸前高田の東日本大震災津波伝承館があります。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で一時休業していましたが、

あるとき、くを通り、建物を見る機会がありました。荘厳かつ落ち着いた佇まいで、目を奪われたのを覚えています。次は入場してみたいものです。皆さんも、いつかぜひお越しください。



近日本大震災津波伝承館  
新建築.online ウェブページから



### <この一幕：演劇>

岐阜平和を語る継ぐ会：主催 「佐々木伍長の戦争」

この舞台では、ある一人の青年を主人公に置き、彼の周辺で繰り広げられる人々の葛藤が描かれていた。青年が何度も特攻命令をくだされる様子からは当時の日本軍の焦燥感が感ぜられ、またラストシーンでの「特攻を英雄視してほしくない」という言葉には今なお

意見が二分する問題に対する、当事者の言葉が聞けたかと思う。

同時公演された「はだしのゲン」とともに、このコロナ禍における大変な状況の中でよく演じられたという印象だ。状況がどうであっても、悲惨な戦争の記憶を途絶えさせてはいけないという強い志を感じられた。こういった活動は是非とも客層を広げて多くの人に見てもらいたい。そのためにも、まずはコロナウィルスの日も早い収束を願う。加えて、さまざまな客層の鑑賞にも耐えうる作品に仕上げることが重要だろう。

たとえば、台詞を覚えきれない場面があったが、書類に見せかけた台本を持って登壇するなどの工夫ができると思う。また、「特攻命令を9回下され、9回帰ってきた」という出来事が、観客に笑い話として捉えられているふしもある。実際、7回目あたりになると笑いが起こっていた。

しかしもちろん、今作を通じて確としたメッセージは然と受け取れた。「学校図書館が閉架式になりつつある」「特攻を英雄のように扱ってほしくない」といったことは非常に共感できたし、同時に危機的に感じた部分だ。

来年以降も、また新たな状況で演劇をせねばならないときが来るかもしれない。それでも、どのような状況でも、戦争の記憶を途絶えさせてはいけないと強く思った。特に近年は

戦争経験者の高齢化も深刻化している。語り手の不在により、かの戦争が風化してしまわないかと案じられている。だが今回、新たな希望を見受けられた。それは若き日の佐々木伍長を演じていた坂大地さんの存在だ。彼のような若者が演じる“戦争”は妙なりリアリティがあり、かつ親近感が湧いた。

同年代が戦争に翻弄される姿を見ていると、戦争というのは決して他人事ではないのだと肌で感じられる。このような、新たな世代が戦争の記憶を伝承していくことへの希望を感じられたのが、今回の一番の収穫である。私もひとりのアーティストとして、戦争の記憶を語り継ぐ者となろうと思った。

かとうゆい(シンガーソングライター)

### <びっくりWORLDぎふ No.10>

#### 「東伝寺の宅平」

私の地域にはデコ(木偶・人形)につける面が残されている。翁を演ずる際につける白式尉と三番叟は黒式尉の面をつけて演じる。古文書によれば「安永3年(1774年)北山にて操り芝居御座候」とある。祭当元帳によれば、豊作のときは両祭り(試楽、本楽と2日かけて)、普通作の年は片祭り(本楽のみ)凶作や戦争の時は面箱(面箱を供え謡のみ)であった。木偶を操ったのは村人ではなく、東伝寺や真桑地域(びっくりNo2)の人たちを呼んでの興行であったという。

織田信長に征服され井の口は岐阜と改名。1569年リス・フロイスがキリスト教の布教の許可をえんと信長にあう。そのとき木偶の戎舞(戎舞)をみたのである。このとき岐阜にはすでに芸能集団があった。ひとつは芥見加野に、もう一つは東伝寺に。加野はその後一宮の島に人形を譲り、今でも島文楽として伝承されている。

東伝寺とは今の河原町庚申堂の東にあった寺で、江戸期には長良川が金華城あたりから3つに分かれており、一番南

側の川筋にそった所に寺があった。そのあたりは中河原と呼び3つの町筋があり、川湊としてにぎわった商人町であった。長良川の上流からは和紙や木炭が、下流の桑名あたりは生活物資が、この湊で陸揚げされ町に運ばれた。また、岐阜周辺の瓦・玉石・織物などの産物をここから出荷していた。

東伝寺の裏手一带には大道芸人、くず拾い、小屋者、かご屋といった「非人」が住みついた。紙屑拾いは東伝寺住民の特権で、集めてきた紙屑を河原町の問屋に運び、問屋は舟で武芸谷へ送って製紙の原料となった。「非人頭」は宅平といいい1678年伊奈波神社の満願寺境内に小屋を張り、躁り(人形芝居)、芝居、見世物の興行をしたとある。これが記録に残る美濃の最古の芸能といわれている。その後徳川令の

もと地芝居はたびたび禁止になるが、宅平の操りは許可された。この地域は低湿地で大雨が降ればすぐさま浸水する。宅平救済金を町毎集めることもあったという。岐阜の芝居は専門家集団がなりたち、濃尾地震の前の年まで続いた。「非人頭」はずっと宅平と名乗っていた (佐藤尚子)



## 例会は19:00~21:00です。

会場は、岐阜市北部コミュニティセンターです。

### 2020年後半 哲学カフェ、第25期の予定

第146回例会 8月13日(木)	「 <b>コロナ危機と気候危機をつなげて考える</b> 」 *コロナ危機で、痛めつけられ、傷つけられた自然が少し「回復」した。 *「人災」の気候危機による自然破壊がコロナ危機を生み出したのではないか。	
第147回例会 9月10日(木)	「 <b>大学入試など、日本の教育問題を考え直す</b> 」 *来年度実施予定の「大学入試改革」は、文科省の不手際、批判続出でご破算に。 *さらにこの間、教育のありかたが根本的に問い直されざるをえなくなった・・・。	
第148回例会 10月8日(木)	「 <b>今後の日本の労働のあり方を考える</b> 」 *コロナ禍対策で浮上したのは「テレワーク」という「新しい様式」だけではない。 *苦境に陥れられた非正規労働者、フリーランサー等の抜本的改革が必要である。	
第149回例会 11月12日(木)	「 <b>世界の行く末を考える—米大統領選の結果をみて</b> 」 *11月3日にアメリカの大統領選挙が行われ、トランプ再選なるかが焦点。 *この結果は、世界の政治・経済に重要な影響を与える。さてどうなるのか。	
第150回例会 12月10日(木)	7月に開催できなかった12周年記念行事を行う方向で準備する。 ・・「コロナ危機後の世界を考える！」というようなテーマで	

### アラカルト わいわいがやがや



★このコロナ禍でさまざまな人たちが苦境に陥っています。その一つが教育にかかわる生徒、学生、教師たちです。2月末に安倍首相は突如、3月2日から全国の学校に一律休校措置を「要請」・・・実際には大多数が従い、「強制」措置になったのです。

★この重大な措置を、子どもの感染がほとんどないとされていた状況で、科学的な根拠も示さず、感染者がごく少数の県を含めて出したのです。首相は「決断」と言ったが、誰がみても「強力な指導者」を演じる政治的パフォーマンスでした。

★この日からまず教師があわてふためきました。何せ急で具体的な方法や指示がなく、週明けの3日後から学年末まで、どのように日程を組んだらよいのか。生徒と親にどのように指示し、説明したらよいかわからなかったのです。

★いちばん混乱し不安になったのは、いうまでもなく生徒と親でした。学校に行けないでどのように過ごしたらよいのか、外へ出せない子どもとどう向き合ったらよい

のか、仕事をもつ親はどう対処したらよいのか、あまりの唐突な「命令」にとまどい、混乱と不安に陥ったのです。

★このような状況は大学にまで及び、4月からほぼ全大学が閉校措置をとり、入学式もできず、対面授業もなく、当分学生は自宅待機でした。大学側は、あわててオンライン授業の実施に向かいましたが、これが学生と教師に重い負担となりました。

★そもそも、情報機器・装置が整っている大学でも、オンラインとなると教師もやったことがなく、学生ももちろんありません。パソコンを持っていてもオンライン可能なシステムにしなければなりません。何よりも、新入生は高い授業料を払ったのに、大学に入れないのです。

★こうした混乱と不安、葛藤はさらに大きな渦となって続いています。いまあらためて日本の教育はどうあったのかをとらえ直し、今後どうあるべきかを問わなければなりません。すでに、少人数学級化など様々な動きがあります。何と言っても、子どもたち・若者は希望の星です。いっしょに考え、行動したいものです。(吉田千秋)